

暖化が進んでいる中、現在、ケッペンの気候区分を学習しているが、教科書および地図帳を併用しながら前ページのプリントに取り組んでいる。

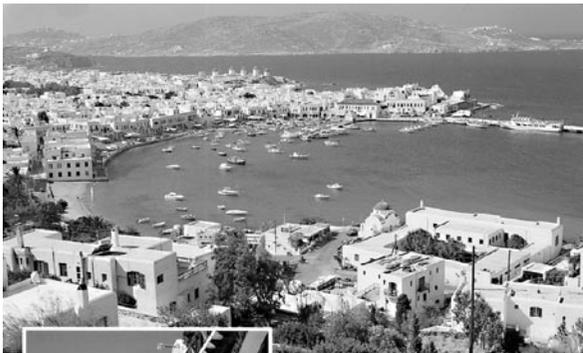
この3枚（1枚はスペースの都合で割愛）のプリントの前段階として、世界の自然環境や地形を学習し、気候の基本知識として、ケッペンが設定した「A・B・C・D・E」の配列やそれに付随する記号を説明し教科書33ページに記載されている【気候区分の指標】を確認しながら、前述のプリントに入っていく。

基本的には先程の「A・B・C・D・E」の順に熱帯、乾燥帯、温帯、冷帯(亜寒帯)、寒帯と見ていくが、各気候では必ず、気候の特色を2つ以上、植生分布・土壌、世界のどの位置に分布しているかを説明していく。また、赤道付近の高山地帯の特別な気候区分を最後に説明し、同じ緯度にあっても高度によって気候が大きく異なることを実感させる。

また、気候統計には、はずすことができないハイサーグラフの活用方法についても解説をしている。

4. 日本との関係の深い気候帯を探求

日本は、北海道、東北・北陸、甲信越の一部を除き温帯気候に該当する。とくに我々の住む関



東地方埼玉県においては、比較的年間を通して温暖な気候である。そこで、温帯の項目に

白壁の家の並ぶリゾート地とひっそりとした街なか
〔楽しく学ぶ世界地理B 最新版〕p.26

でてくる4つの気候区分の特徴の中でとくに今回は、日本の温暖湿潤気候(Cfa)と夏季オリンピックが開催されるアテネが該当する地中海性気候(Cs)を生徒と共に比較してみた。

今回のアテネオリンピックは、期待される野球の長嶋ジャパンの活躍を筆頭にメダル獲得の高い種目が多い中、生徒の関心も高く、世界史の授業でギリシャ・ローマ時代を学習し歴史的建造物が多いことも理解しているので、日本との比較について生徒からも積極的な意見が多く出た。

一例として

- 日本の温暖湿潤気候については
 - ①温帯の中でも四季の変化が一番はっきりしている。
 - ②今年梅雨の6月に台風が多い。
 - ③季節に応じた風が吹く。
 - ④樹木の種類が多い。
 - ⑤秋の紅葉が美しい。
 - ⑥最近真冬でも地球温暖化の影響で暖かい。
- アテネ(ギリシャ)の地中海性気候については
 - ①降水量のグラフの形が日本と逆になる。
(冬降水量が多く、夏は乾燥する)
 - ②地中海に面した地域にはリゾート地が多い。
 - ③日本に比べて長期休暇を取る人が多い。
 - ④夏の乾燥に強いオリーブやコルクガシなどの耐乾性の植物が多い。
(この地域に生息する月桂樹をマラソンの優勝者に捧げることを知っている者も多数)
 - ⑤ワインの原料となるブドウやオレンジの栽培が盛んである。

こちらが想定していた解答よりも豊富な内容があり、このテーマを主眼に選んだのは良かったと思った。

これからも、この新しいタイプの教科書を活用して生徒の実態、時事内容と興味にあった授業をつくりあげていきたい。